

中齋塾 東京フォーラム  
平成 27 年度 第 2 回講話

平成 27 年 2 月 14 日  
於 湯島聖堂

二十歳ぐらいの頃に一人で東南アジアを、ぶらり旅をしました。その頃はベトナム戦争の直前ですから、かなりピリピリと危ない時でして、「ここから先に行くと捕まって殺される」と言われたけれど、私は何の根拠もなく「大丈夫だ」と言って、カンボジアからタイへの小さい橋を歩いて渡りました。渡った瞬間に兵隊がババッと現れて銃を突きつけられて捕まってしまい、身包みは剥がされませんでしたでしたが調べられました。後で考えてみると、あの時殺されていてもおかしくはない。だって、ここから先に行くと殺されるよと言われて、何の根拠もなく「大丈夫だ」と勝手にそう思って動いて行きましたから。その頃イスラム国のようなものがあつたら、仮に捕まえた者がそういう類の者であれば、今ここに立ってはいないだろうと反省をいたしております。

私は陽明学という考え方が基本にありますので、とにかくまず行動するという動きをしています。若いときは、それがもう鮮明に出ていました。

### 基本哲学「知足」

顧問からメールがきました。そのメールは、フィンランド国からムーミンテemaparkの日本への展開。この導入をお手伝いする事になりました。栃木、群馬はびつたりの土地があるとお聞きしているので、どうぞ探していただけませんかと、きました。

顧問は本当に色々なことをやります。それで関係者 5 人ほどに聞いてみました。すぐに「3 千坪探してくださいと書いてありましたけれど、3 万坪の間違いじゃないですか」と問い合わせがきました。なので顧問に「坪単価や交通の便はどうですか、何か他に条件はないのですか」と聞いてみました。

その返事がきましたので、返事を読みます。

一昨日、インドより帰国いたしました。ムーミンテemaparkの建設計画を進めております。ムーミンテemaparkは、お客様にとって交通の便がよいことです。情報のご提供は早いほどありがたいです。…坪単価がいくらかなんて何も書いていません。

平成 27 年の日本に良いことは、たぶん何も起こらない。悪いことはたくさん起こると言われています。…これはインドでそういう話がたくさん出たんだと思います。

一方、しみじみは大ヒット。インド・デリーで国際的な会合をするので、前に言われた、しみじみを「静かに」と「奥深く」とに訳したのが、上手く受け入れられたきっかけになりました。…私がアドバイスした事とは全然違う発表をしています。私は西行法師の和歌「なにごとのおわしますかは知らねども かたじけなさに 涙こぼるる」という句と、良寛さんの俳句です。あと信胤先生が言われた、一枚の葉っぱがひらひらと落ちてくるのを見て「天下の秋を知った」と、この言葉をどう英訳していたかを調べたかどうかは全然書いていない。

それで論点は、54年前から持続性について議論ばかりしているけれど何も結論を出していない。だからこの大会で、もうそろそろ終止符を打つ手を考える。問題は多くの人達の無関心ではないかと考えている。僕は日本人だから両陛下に、ひと働きしていただきたいと考えている。

英国のチャールズ皇太子に、世界の王族がネットワークを作って自然環境の崩壊に非常に心を痛めている旨、方々で何度もおっしゃってくださいとお願いしたら、チャールズ皇太子が御滞在中に、晩餐会で天皇両陛下と話しをされ、エコプロダクツ展に初めていらっしやっただけだと宮内庁から通知が届いたそうです。この話は前から聞いていますけれど、日本という国を動かすには天皇、皇后のお力がいると、これは前から確信を持って言っておられる。日本国内で両陛下に何か物申そうとすると、全然話しが通らないのでチャールズ皇太子に頼んだら話がスッと通ったということです。それで何故チャールズ皇太子かといいますと、以前イギリス議会で要請されて、日本について話のできる日本人として顧問が選ばれて、イギリス議会で日本のことを、そしてその時に日本人は「足るを知る」という考え方を持っていると話したので、「足るを知る」を広めましょうという話がありました。

その後の続きですが、不幸にしてエコプロダクツ展が始まる2週間前に天皇が腕に湿疹が出る御病気になり、折角の御予定が中止になってしまった。その後チャールズ皇太子はバッキンガムの御自宅に我々13人全員を招待していただいたという話です。労をねぎらってください、再活動のお約束をして別れました。で、ここからがおもしろいのですが、不肖、私自身がやらずに誰がやってくれるか、誰がやるかと思っています。お知恵とご支援をお願いしますと、きました。ですから我々の活動している内容は、日本の国を良くする動きと同時に世界を良くする動きに直結をしておりますので、どうぞそのおつもりでお願いをいたします。

### 良いと思うことを拡大して

先日、群馬でやっておりました中村天風先生に係る研究会に行ってきました。さぞかし良い話が聞けるだろうと、わくわくしながら行きました。行ってみたら、がっかりしてしまいました。でも収穫はありました。本屋で売ってない本がいっぱいありましたし、CDやDVDもありました。チェックして良いなと思うもの全て買ってしまいました。

天風先生の父親は梁川藩士でして、代々伝わる抜刀術に天風（あまつ）という型があるそうです。その型を頭山満先生に披露したら、お前は凄い腕だなと感心して、天風（あまつ）の型だから、今後は天風（てんぷう）と名乗れと言われて天風になったというエピソードがありました。こういう話は結構おもしろいですね。

これは良いだろうと思って行った講演会はがっかりしたのですが、でも、本やテープで良いのがあった。ここでね、どっちが良いかです。昨日 1 日を思う時に、あまり良くない講演会だったなと思ったら、それは悪いほうの 1 日になってしまいますが、私はその中で良い本をたくさん見つけた。だから良い日だったなと思いました。どうぞ天秤にかけないで良いと思うことを拡大して、1 日を終了にすれば良いと思います。天風先生に関する講演会にて感じました。

もうひとつ、経済評論家の三橋貴明さんの講演を聞きましたが、この人の態度はあまり良くないし話し方も上手ではないですが、けっこう中身の濃いことを話していました。この経済評論家さんは、分析の仕方が上手で、中身はこういう言い方があるなと思っておもしろかった。

デフレに関して、必ず何かイベントがないとデフレは起きませんという説明は印象に残りました。バブルが弾けないとデフレが起きません。バブルが弾けるというのは何かと言いますと、投機だということです。オランダでいけばチューリップひとつの球根が 2 億 4 千万の値段がついたのに対して、日本は土地が高くなった。土地ですね。

物を投資じゃなくて投機。これで利ざやを稼ごうという感覚で投機をして、それが弾けるとデフレに繋がってくる。世界各国そういう流れですねという言い方をしていたのが、印象に残りました。それで図表を使いながら説明して、税金を取るという事は自分の懐からお金を持っていくようなものという事を非常に分かりやすい説明をしていましたので、この人の話しを聞くなり本を読んだりすると良いだろうという気がいたします。三橋貴明さんはお薦めです。さっきの良し悪しでいうと、態度や喋り方は悪いですが、中身はおもしろいと、お取りください。

## さつま芋先生

前から、さつま芋に関する所に行きたいと言っていて、神藤評議員長に探していただいて、日本いも類研究会の会長にお会いしてきました。その先生の科白も面白かったので、ご説明します。

その先生は、日本は終戦直後、食糧危機に陥った。そうしたら、「あなた方は何年生まれですか」と聞くので、「昭和 22 年です」と二人とも同じですので答えました。そうしたら「ああ、お気の毒に」と言われ、「何故ですか」と聞きますと「ちょうどあなた方は餓える時代、餓えている時代にめぐり合わせましたね。私は終戦直後の食糧危機の時は子供だったけれど、よく覚えています」

さつま芋先生の実体験で、昭和 20 年はまだ日本の国民は餓えていません。21 年も半ばま

では餓えませんでした。昭和 20 年までは配給制度がきちんと機能していたから、少なくとも餓え死にはしていない。日本が負けた直後は兵隊さんの所にたくさん隠匿してあった食料が放出されたから 1 年のうち半分ぐらいは放出物資で生きていたので大丈夫でした。放出した物資が無くなった途端に餓え始めたけれど、それにしてもちゃんと育ちましたねと言っていました。

昭和 22 年は食料の無い時代で、さつまいものおかげで日本人は生き延びたと思ってください。だから私は今、生涯をかけてさつまいもを日本全国に普及させる動きを一生懸命しております。最近では北朝鮮から、さつまいもを教えてくださいと来たけどお断りしました。チェコスロバキアからも来たけれど、それは私の関係者に行ってもらって成功しました。江戸時代から作っていたさつまいもが川越である方が出て従来の 3 倍の収穫量を確保できるようになりました。私はそれを受けついでいますというお話しでした。

それで私は、学者から 300 坪あれば一家 4~5 人の家が 1 年間食べていけるという話をお聞きしましたので 300 坪を手当てしました。そこで家庭菜園を始めました。家庭菜園を始めましたが、肝心のさつまいもの作り方を教えてくれる方がいないので探しまして、お伺いいたしました。

その家庭菜園は試行錯誤中ですので、先生にさつまいもを教わって上手くいったら中斎塾フォーラムメンバーの方に御自宅でも出来る、またはベランダでも出来るやり方を教えていただきたい。それを広げて順調にいきたしたら、今度は私が関係している会社の社員さん達にも広げたい。東日本大震災の時もそうでしたけれど、食料から色々な物資をその時には社員の方たちに送りました。食糧危機が起きた時に、その 3 千人の社員の方が抱えている家族全員をみると約 1 万人が必要であろう。そういう動きをしたいと思いますし、関係する方々が餓えないような手立てをしたいと思いますので、さつまいもの作り方を教えてくださいと申し上げたら、「家庭菜園をすぐ見に行きましょう」という話になりました。さっそく明日の 10 時 30 分にお越しになります。

これは全部、皆様方に関係する話になりますから、少しずつ少しずつ、お願いごとやら動きやらが出てくると思います。

## 恒例の質問

- ・ 2 月になってから嘘は少なかった。
- ・ 2 月は比較的、良い日が続いている、良い日が続いた。

笑顔の人を見ると何かちょっと心も温かくなる。何か 1 つ良いことを見つけましょう。そうしたら、それを拡大していく。

- ・ ありがとうと言われるのは当然として、ありがとうと言われる事も多かったという人。
- ・ 昨晚、寝る時に明日を過去形でイメージした方。

すごい4人。ありがとうございます。

・今年に入ってから自分を磨こうと思って何かした方。

だんだん話も絞ると、自分を磨くことは必需です。信じる気持ちを持っている人は、どんなことでも嘘か本当か、見たり聞いたりしたらパッと分かる。

## 人間社会の崩壊（1、医療制度）

人間社会が崩壊するのはごく当然の流れですから、西洋文明から東洋文明に移行する大転換期だという中で、新しい国家が誕生したり従来の国家が潰れていくのも、ごく当たり前の話と何度も申し上げています。その中の一つの事例として、医療制度の崩壊が詳しく今日ご紹介する本『沈みゆく大国アメリカ』に書いてありました。アメリカの医療制度はオバマケアによって崩壊中であるという内容です。

オバマケアは国民皆保険制度を推進しているから良いという話しですけど、日本の皆保険制度とは、まるっきり似ても似つかぬ物だということが詳しくその本に書いてあります。まんざら嘘でもないなという感じがいたします。はっきり思ったのはオバマケアが進むことによって中流階級がみんな没落をしていくという実感を持ちました。日本も今どんどん中流が無くなっています。日本はどうも年収 200 万というところで線引きをする。これは単なる感じですが、そういう感じがします。今、500～600 万ぐらいの年収の人は 200 万以下に落ちていく。どんどん進んでいるという実感があります。アメリカの場合も中流がいなくなっていく。世界各国そういう動きがどんどん進んでいる感じがします。逆に一握りの富裕層は利益が出てどうにもならないという動きでした。

そういう事を今まで申し上げていましたけれど、今年に入ってから過去形の話になるのではという気がしています。一握りの富裕層というのは、金は金を生む仕組みで儲けているわけです。けどもう金が金を生まない時代に入ってきていますから、金利で儲けるという時代は終わりつつあります。何かに投資して儲けるということはまだ良いとして、投機で利益を上げようとする、どうにもならない状況になる。だから投機を進めている一部の富裕層、その代理人達は真逆さまに落ちていく。そういう歴史的な大きな流れの真っ只中であろうと前は文字でお話をしていましたが、最近は数字で証明するものがぼつぼつ出てきています。資本主義の終焉に関して何故かということも数字で説明している学者が何人か出てきています。今年は動きが実態をともなって見えてくる世の中だろうという感じがしています。

オバマケアによって、アメリカの医療制度は崩壊が加速しているという事がいえる。ですから今日のテーマ「人間社会の崩壊」とは、これから色々な制度がどんどん崩壊していくと、お考えいただくと良いと思います。

## 書籍紹介

### 『沈みゆく大国アメリカ』堤未果著 集英社新書

日本の医療費は増大する話はよく出ていますけれど、アメリカで進んでいる例で日本の場合、役に立つかどうかは分かりませんが、現実には起きているという話をいたします。

医療費に歯止めを掛けるには、安楽死薬を飲めば安楽死できます。薬を自己責任で選んで買う。安楽死薬を購入する時には、国の保険を使えばよい。日本でも、そういうことが起きれば医療費増大に歯止めが掛かるでしょう。アメリカはそれを既にやっておりますと書いてあります。

ちなみにオレゴン州の医療保険制度で OHP(オレゴンヘルスプラン)という事務局に、癌になり薬を買おうと思うけれど、お金が足りないので支払いを申請したら、返信が来ました。「癌治療薬の支払い申請は却下されました。服用するなら自費でしてください。かわりにオレゴン州では合法化されている安楽死薬なら、州の保険適用が可能です」これが支払い申請した人に対する事務局の答えです。別の解説で、治る見込みのない薬代が掛かり過ぎるから、もう助からないと思ったら自分で安楽死を選んでください。それで安楽死を選ぶ人が増えてオレゴン州は医療費に歯止めが掛かりました。ブラックユーモアが、かなり入っていますが、日本もどうぞみたいなことが若干ニュアンスであります。

## 論語の視点 子路第十三

【十一】子曰く、善人邦を為むること百年ならば、亦以て残に勝ち殺を去るべしと。誠なるかな是の言や。

・私は善人だと思う方？

・悪人だと思っている方は？

—やっぱりいますね。ありがとうございます。

・善の心もあるし、悪の心もある。それが普通だと思っている方はどうでしょうか？

—ありがとうございます。私は最期に与しております。性善説と性悪説がありますから、まあ、どちらでもいいんだろうと思っています。

ただこの中で、孔子が善人と言い切ってしまうと、ちょっと苦しい。例えば、美味しいものを品性が悪い人でも美味しいと思うのでしょうか？正しいことをしている人だけが、美味しいと思うか。悪いことをしている人も美味しいと思うのでしょうか？

—悪い人は、もっと（美味しいものを）欲しいと思う。

偉い、そこですよ。もっともっとと貪る心が出てくると良くない。善人とは、ことさら何か努力して善い行いをしよう、善い考えを持とうとかしなくても、何となく悪さはしない。結果として比較的善いことをしている。

善人がその国の王様や君主として百年間続いたらという過程の話ですので、百年続くということは、やはり非常に少ない。だからそう考えると、善人の君主が百年間続いたら、その善の意識は世の中に浸透していくでしょう。

「残に勝ち殺を去るべし」と殺は死刑ですから、死刑制度もなくなるでしょうと言っています。

「誠なるかな是の言や」それが自然なんだろうと捉えればよいでしょう。

百年間善人が続くかということ、まあ続きはしない。善人だと思ったら途中で悪さしているし、また悪さしている人が良いこともたまにはする。大体それが人だと思いますので、ここは「もしも」という風にお考えいただければ良いだろうと思います。

論語は何度も申しますけれど、現代に置きかえて考えるのが一番肝心です。

現代に置きかえてみれば、アベノミクスを遂行している安倍さんが、百年間自分の思想を通すならば死刑制度は無くなるであろうかと置きかえたら、どうでしょうか。

そんなことは起きないでしょう。アベノミクスは失敗すると申し上げていますから、まあ詭弁が多いなと感じます。

皆それぞれ誰かを総理大臣にしてみればいい、そうお考え下さい。あとは自分が総理大臣だったら、または自分が一家の長や会社の長であればと置きかえて考えて、自分の良いと思うことを、もし百年間続けることが出来るのであれば、そこは発展していくであろうと捉えればよいでしょう。ここは何となくですが、百年という文字が入ったから眉唾で聞いております。ただ百年続く企業、国家は当然ありますから、良いことが沢山あったのでしょう。比較的、悪いこと良いことで見れば、結果として良いことの方が多かったでしょう。

もう少し余計なことを喋ると、ここら辺はブラックユーモアが入っている。ただ儒教圏の中で韓国は、名前が残るのは良くないし、百年二百年続くのはおかしいという考え方が残っています。だから韓国には長寿企業はありません。

百年は一つのキーにして、我々も考えてみれば良いかと思います。それで、孔子がニヤツとしながら喋っている。そういう風にここは感じます。

**【十二】子曰く、如し王者有らば、必ず世にして後に仁ならん。**

こちらのほうが、まだましで良いです。もし聖人君主が登場したなら、必ず30年で仁は

その国に行き渡るであろうということです。

置きかえて考えてみれば、立派な人物がトップに出たら、30年で仁がその会社に行き渡るであろう。

日経新聞が創業社長30年説というのを出していました。ひとつの会社は30年経ったら終わり。創業者が30年で、もうボロボロになる。これ私、実感しています。私も創業して30年経ち58歳で社長業をバトンタッチしましたが、バトンタッチした時は、冷えピタを1日中貼りっぱなし。体はボロボロで目も良く見えない。とにかくガタガタになったという記憶があります。30年でボロボロになってしまった実感がありますから、30年以上やっている人は凄いなと思います。凄いと思うものは、こう凄いなと思っています。人にどんどん仕事を押し付けて、コントロールして周りをたくさん働かして、自分は30年50年持つ。そんな感じで見ています。それで会社を大きくしていく人も当然います。周りの人の力を活用する術を知っている人は会社なり何なり、発展させていくでしょう。国家も同じです。ただ自分が前面に率先して出て働いて動いていると、30年で身体がボロボロになるという実感があります。

**【十三】子曰く、苟も其の身を正しくせば、政に従うに於て何か有らん。其の身を正しくすること能わずんば、人を正しくすることを如何にせん。**

トップが正しいことを正しく考え実行していけば、政治はそんなに難しくはない。自分の身を正しくすることを口では言うけれども、実際には正しいことを実行してない。そうしたら人を感化することなど出来はしませんと、ここは読めばよいでしょう。

孔子は自分の身を振り返って、私を活用してくれる人はなかなかいない。困ったものだみたいなことが、入っています。ここは愚痴ですね。

### 時事評論

今回は時事評論の準備が出来ませんで、今朝、聖橋に来てから新聞を見ました。昨日の夕刊、朝刊、今日の朝刊をチェックしてきました。

それで少しずつ何か是正しなければいけないと思っています。というのは、今、目がترونとしていましてね、明日のことを過去形でイメージする時に、確かに過去形でイメージはしたのですが、夕べは良かったなと思うイメージではなかった。疲れたなと思うイメ



ージでした。

何故かといいますと、今日は事前に予習と調べなければいけないことを1つやる。それから講話をさせていただく。終わったら詩吟の練習のご指導を申し上げなければいけない。詩吟が終わったら、今度は食事ですが、食事の時には上田監事が来て評議委員会の作業をするので、その対応をしなければならぬし、食事もとる。それが終わったら幹事会に出席。幹事会が終わったら、すぐ理事会を行うというから理事会をしますが、普通は理事会で決算書の報告を理事長がしますが「代わってください」と言うので私がします。それが終わった後は、唯識学をしなければいけない。

私は今年に入ってから1日に1つやれば良いと決めていたのですが、今日は一体いくつあるんだと、これは多いので何か譲らなきゃと思って、夕べ疲れきって寝る状況をイメージして寝てしまいました。やはり疲れてしまった。

時事評論の説明しようと思って目に付いたものを幾つか申し上げます。

これも新聞についての念押しですね。新聞は、事実を事実通り伝えないものであるという前提で読まれたほうがよろしいでしょう。書き手の主観が入ります。

最近ではイスラム国の表現が変わってきました。それからアメリカの思惑、ロシアの思惑、皆それぞれを新聞に出す時には、表現を変えます。判らないように、また判りにくいように書くと頭が良いと勝手に思っている。学者も同じで簡単なことを判りにくく言うと立派な学者、判りにくい・難しいことを判りやすく言うと、あいつは馬鹿じゃないか、なんであんなに簡単に言うんだというふうな評価になりますから、新聞を読む時に判りにくく書いてある時には、本質本音だけをよく読みとるようにすればよいと思います。

今日、目についたのは2月13日(金)の朝刊で、「群馬県川場村、縁結び大作戦。世田谷の独身女性対象」と書いてあります。世田谷と群馬県川場村の独身男性の縁結びに繋げようと、縁結び作戦が開かれるという記事でした。新聞記事をご覧になる時に、自分の棚の中に色々な情報を入れておくと良いですよ。

この川場村という所に私は引っかかりました。川場村は日本で一番有名な道の駅だそうです。

先程のサツマイモ先生・井上浩さんが、川場村と粕川村のお芋を指導したということで、私は2~3日前に川場村道の駅に行ってきた。いろいろ買い込み調べたら、その道の駅で乾燥芋を売っている人が、「お客さんラッキーですね」と言うので、「何がラッキーなの」と聞いたら、「この乾燥芋は、売れて売れて入荷したらすぐに売れてしまう。1日もたないんですよ」ということです。そこは売上ランク表があって、川場村道の駅ベスト10の第2位が乾燥芋でした。だから幻の芋だそうです。川場村は今、必死になって群馬県のイメージアップをしています。ニジマスを使ってギンヒカルという名前で、美味しい魚を養殖しています。ですから川場村は、人を集めようと思って、飛びつきやすそうなものを

計画している。この裏側にあることは、川場村村長の思惑、県知事の思惑、それで東京都など全部ひっくるめて見えてくる。だから男女の話だけではなくて、地域起こしから村の収入から日本全国を見据えた展開をしていくと見えてきました。そういうことで、引き出しをたくさん持っている色々な物に結びつけて見えます。

読売新聞 2 月 13 日「財政再建スタート」、これはプライマリーバランスの話ですね。財政再建、消費税率 10%について書いてあるが、今回の提言は、歳出削減の具体策に触れていないが、毎年一兆円程度増え続ける医療や介護などの社会保障費などの削減、念頭にあるようなので 20 年後の黒字は困難であると書いています。

これ言い訳ですから。政治家の片棒を担いで、こんな記事を書くとは、読売新聞は何をやっているんだと感じます。

それから「米国、イラクに拠点基地」、こっちは「イラク、クルド自治政府はイラクにヘリコプターの拠点となる基地をつくります」と書いてある。

イラクがつくりますと書いてあるけど、読むと主に米軍の軍用ヘリ、ブラックホークが配備される見込み。何の事はない、これはアメリカの代理戦争。アメリカとロシアの代理戦争をやっているけれども、アメリカが何とかもうちょっとしがみ付きたい、オバマさんはまだ放り出されたくないから、こっちの方にちょっと力を入れますと、それを新聞で書くと「イラク・クルド政府は」と書くから、何なんだいと思います。単純にオバマさんの政権延命ではと思います。

ロボット手術という記事がありますが、これから少子高齢化が進み 16 歳から 64 歳までの働き手が減っていく。そうするとロボット化するしか日本はない。外国人労働力を入れれば日本はどんどん悪くなっていく。だから技術を開発するしか日本の生きる道はない。ロボット手術指導員認定というのは良い動きだなと思います。

あと利上げ予想で、金融緩和の波がある通貨安競争が世界全体に広がってきた。これは当たり前です。通貨安競争が広がれば広がるほど世界はデフレの波に飲み込まれて、潰れる国家が出て、新しく台頭する国家が生ずる。それが歴史的な大転換の波に入っているとなぜ書かないのか。目先だけで書くやつがあるかと思ひまして、ちょうど時間です。有難うございます。